

【道路建設課所管 事後評価審議資料】

○公共道路改築事業（一般県道富加美濃線 志津野・松森）

- ・事後評価箇所表
- ・説明資料（パワーポイント）

平成 23 年度事後評価箇所表

番 号	4	事業名 (路線名等)	道路改築事業 (地方道路整備事業) 一般県道富加美濃線 志津野・松森工区	
実施箇所	関市志津野～美濃市松森		全体事業費 (当初事業費)	5 5 億円 (5 7 億円)
採択年度	平成 9 年度	完了年度	平成 2 1 年度	
事業目的	<p>一般県道富加美濃線は、加茂郡富加町大平賀地内の主要地方道関金山線との交差点を起点に、美濃市松森地内の国道 156 号に至る延長約 7.5km の幹線道路である。</p> <p>志津野・松森工区は、このうち、関市と美濃市の境界部の未改良区間を整備する 2.84km の事業である。</p> <p>志津野・松森工区の整備により、沿線に開発された大規模工業団地「関テクノハイランド」から東海環状自動車道「富加関 IC」や東海北陸自動車道「美濃 IC」への利便性が大幅に向上され、地域経済の発展に大きな役割を果たしていると同時に、沿線住民の安全で安心な交通を確保した。</p>			
事業概要	<p>事業延長 L = 2, 8 4 0 m</p> <p>車道幅員 W = 3. 0 0 m (2 車線)</p> <p>歩道幅員 W = 3. 5 0 m (両側、一部片側)</p>			
概要図				

評価結果	
①住民参加・協働による効果	
○整備後、住民活動として交通安全活動、清掃活動が開始されている。	
②事業効果	
○地域経済活動の支援	
・物流交通（大型車）のアクセスルート変化	
関テクノハイランド	(整備前) (整備後)
⇒東海環状自動車道「富加関 IC」	: 約 9.1km ⇒ 約 5.1km 【約 4.0km 短縮】
⇒東海北陸自動車道「美濃 IC」	: 約 6.3km ⇒ 約 2.8km 【約 3.5km 短縮】
○最寄りの高速道路 IC へのアクセス向上	
・東海環状自動車道「富加関 IC」～東海北陸自動車道「美濃 IC」間	
走行距離	約 7.6km ⇒ 約 7.3km
走行時間	約 12 分 ⇒ 約 10 分 【約 2 分短縮】
旅行速度	約 38km/h ⇒ 約 46km/h 【約 8km/h 向上】
○隘路の解消による円滑な交通の確保	
・狭隘、線形不良区間が解消され、円滑な交通が確保された。	
○安全で快適な歩行空間の確保	
・歩道整備により、歩行者と自動車の分離が図られ、歩行者の安全性が確保された。	
○事業費コストの縮減を実施	
・両側歩道設置区間の見直し（約 0.9km を片側歩道）	⇒ 約 0.5 億円の削減
・発生土を工程調整等により他工事に流用	⇒ 約 0.7 億円の削減
○志津野・松森工区の B / C は 1.8 であり、一定の費用対効果が見込まれる。	
③環境面への配慮	
○富加美濃線の工事により付け替えが必要となる水路に「ホトケドジョウ（環境省絶滅危惧 I B 類、岐阜県絶滅危惧 II 類）」の生息を確認したため、学識経験者の意見を伺いながら、ホトケドジョウの一時避難を実施した。	
④事業を巡る社会情勢の変化	
○関テクノハイランドの分譲、東海環状自動車道の開通、及び志津野・松森工区の整備により、富加美濃線の交通量が著しく増加した。	
・H18 年度：3,653 (台/12h) ⇒ H23 年度：8,533 (台/12h) 【約 2 倍】	
⑤利用者・地域住民等への効果	
○沿線住民等へのアンケート調査の結果	
・当該区間の整備に対して、約 72% から満足の回答が得られている。	

⑥対応方針

(今後の事業評価の必要性)

- 走行時間短縮、隘路や線形不良区間の解消など、事業効果が確認できた。
- 沿線住民等へのアンケートでも、7割以上の「満足」を確認できた(「やや満足」を含む)。
(※「不満」は1割未満)
→以上の点ことから、今後の事業評価は不要。

(改善措置の必要性)

- アンケート結果より、スピードの出し過ぎが目立つようになったとの声が多いことから、今後、警察等とも協議のうえ、速度抑制等の安全対策について検討する。

(新規事業へ適用すべき留意点)

- 本事業は、クリーンプラザ中濃の運用開始や関テクノハイランドの分譲、東海環状自動車道の供用など、沿線事業の進捗に併せ連携を図りながら進めることができた。今後の事業にあたっては、関連する各種事業との連携を図りつつ事業を推進していくことを目指す。

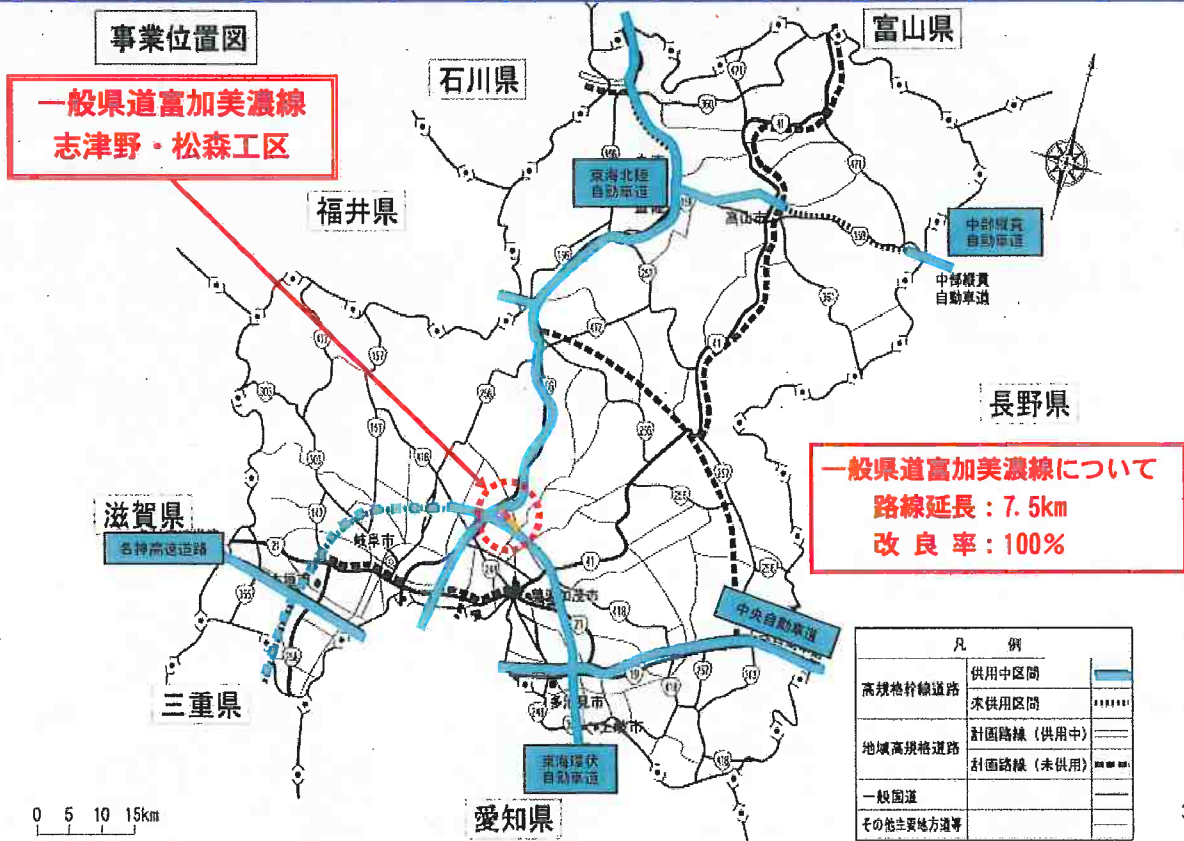


目 次

1. 事業について
2. 事業の効果
3. 環境面への配慮
4. 事業を巡る社会情勢等の変化
5. 利用者・地域住民等への効果
6. 対応方針

1. 事業について

(1) 一般県道富加美濃線 志津野・松森工区の位置①



3

1. 事業について

(1) 一般県道富加美濃線 志津野・松森工区の位置②



1. 事業について

(2) 事業の目的

活力

物流・観光、地域経済の持続的発展の基礎となる道路整備

- ▶ 地域経済活動の支援
- ▶ 最寄りの高速道路ICへのアクセス向上

安全・安心

地域の生活を支え、人に優しい安全で快適なまちづくりを支える道路整備

- ▶ 隘路の解消による円滑な交通の確保
- ▶ 安全で快適な歩行空間の確保

5

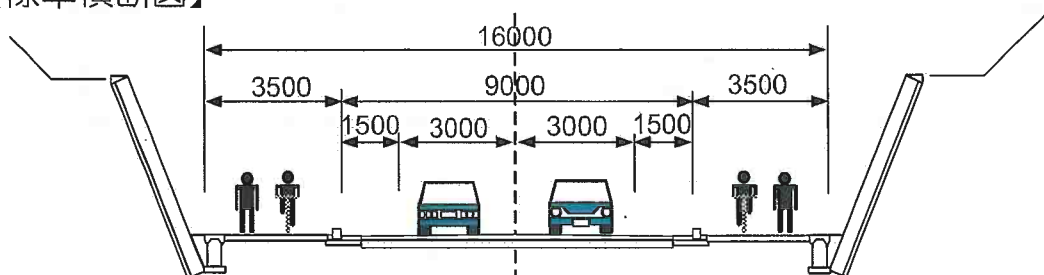
1. 事業について

(3) 事業の概要

起終点	せきししつのみ 関市志津野～美濃市松森
全体延長	2.84 km
総事業費	約55億円（当初事業費：約57億円）
事業期間	平成9年～平成21年
道路規格	第3種第3級、設計速度50 km/h
幅員	車道：3.00m×2車線 自歩道：3.50m（両側）

※一部街路事業も含む

【標準横断図】



1. 事業について

(4) 事業の経緯

年度	事業経緯
平成 9年	事業着手
平成10年	用地買収着手
平成11年	工事着手
平成12年	①一部開通(L=0.4km)
平成15年	(「クリーンプラザ中濃」運用開始)
平成16年	②一部開通(L=0.44km) (「関テクノハイランド」分譲開始) (東海環状道「美濃関JCT～豊田JCT」開通)
平成18年	③一部開通(L=1.0km) (「関テクノハイランド」分譲完了)
平成21年	④一部開通(L=1.0km) ⇒志津野・松森工区全線開通(L=2.84km)



平成15年度運用開始
関市、美濃市から排出される一般廃棄物の中間処理施設で、資源ごみを処理するリサイクルプラザも併設

平成16年度分譲開始(全18区画)
高付加価値を持ち社会環境に対応した将来性のある先端技術産業の集積を目指した工業団地

1. 事業について

(5) 路線および周辺の状況① (旧道の状況)



写真①



写真②



1. 事業について

(5) 路線および周辺の状況② (整備後の状況)



写真①



写真②



9

2. 事業の効果

(1) 地域経済活動の支援

大型車の高速道路へのアクセス性が向上し、企業活動を支援

物流交通(大型車)のアクセスルートの変化



走行ルートは事業者ヒアリングによる

企業の声

(ヒアリング)

- 富加美濃線の整備により関テクノハイランドから富加関ICまでの輸送時間が大幅に短縮された。また、時間短縮に併せて燃料費の面でも効率化が図られた。
- 富加美濃線の整備により富加関IC及び美濃ICの2つのインターが近くなり、東海環状自動車道と東海北陸自動車道の双方が選択できるようになり、輸送効率の向上が図られた。



10

2. 事業の効果

(2) 最寄りの高速道路ICへのアクセス向上

志津野・松森工区の整備により、美濃IC⇄富加関IC間のアクセスが向上



2. 事業の効果

(3) 隘路の解消による円滑な交通の確保

志津野・松森工区の整備により、円滑な交通を確保

●整備前(旧道)



旧道は隘路や線形不良区間が存在していた。

●整備後(バイパス部)



整備により、円滑な交通が確保された。

2. 事業の効果

(4) 安全で快適な歩行空間の確保

志津野・松森工区の歩道整備により、歩行者の安全性を確保

●整備前（旧道）



旧道には歩道が無かった。

●整備後（バイパス部）



歩道整備により、安全性が確保された。

13

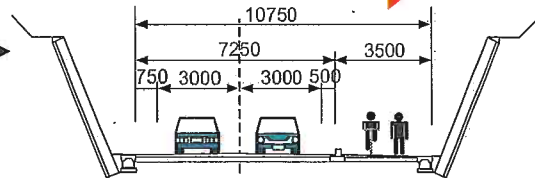
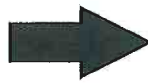
2. 事業の効果

(5) 事業コストの縮減

○歩道計画の見直し

歩道について、利用状況を勘案し、起点側0.9km区間を片側設置とした。

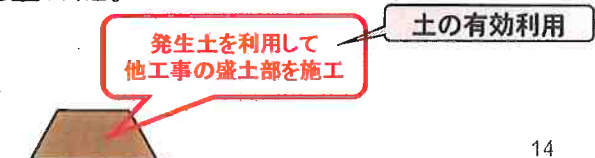
約0.5億円の縮減



○切土材の有効活用

切土による発生土を、県道工事(美濃川辺線、勝山山田線、上白金真砂線等)や民間宅地造成、砂防工事に流用することにより、処理費の削減を図った。

約0.7億円の縮減



14

2. 事業の効果

(6) 費用対効果分析

○事業の効果

走行時間短縮便益	・ ・ ・ 便益全体の	約94%
走行経費削減便益	・ ・ ・ 便益全体の	約 6%
交通事故減少便益	・ ・ ・ 便益全体の	約 0%

○費用対効果

総便益 / 総事業費 = 1.8

15

3. 環境面への配慮

- 富加美濃線の工事により付け替えが必要となる水路に「ホトケドジョウ (環境省絶滅危惧ⅠB類、岐阜県絶滅危惧Ⅱ類)」の生息を確認した。
- このため、学識経験者の意見を伺いながら、ホトケドジョウの一時避難を実施した。



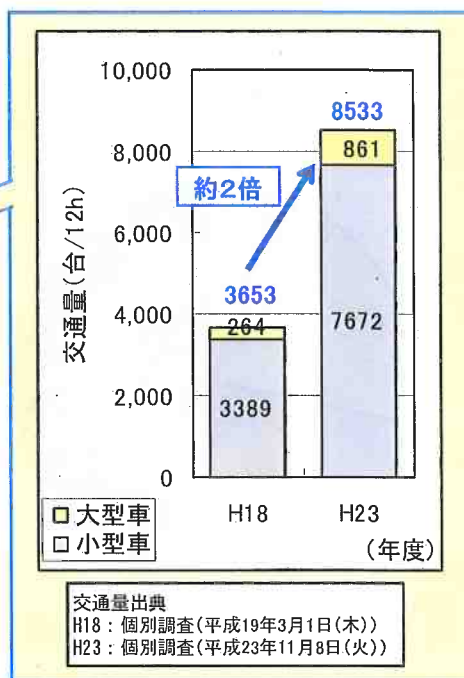
中日新聞 (H15年10月2日)

16

4. 事業を巡る社会経済情勢の変化

○交通量の増加

関テクノハイランドの分譲、東海環状道の開通、及び富加美濃線の整備により、交通量が著しく増加



17

5. 利用者・地域住民等への効果検討

(1) アンケート調査の概要

アンケート調査概要

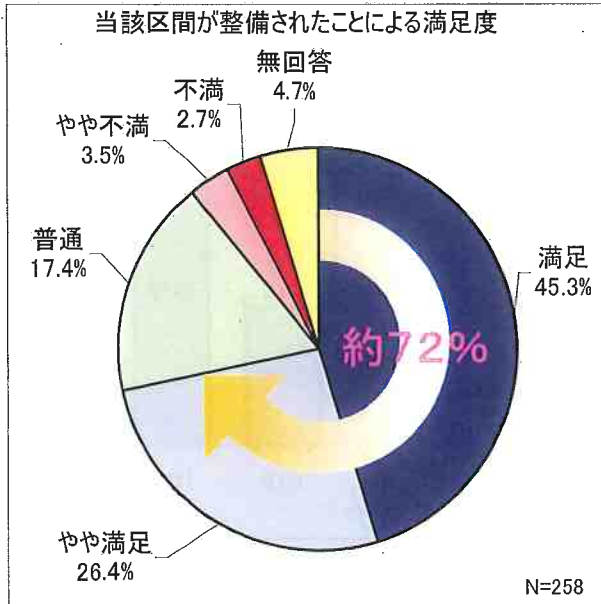
	関市	美濃市	合計
配布枚数	657票	597票	1254票
回収票数	169票	81票	258票
回収率	26%	14%	21%

※アンケートは自治会配布、郵送回収により実施
住所不明分8票含む

18

5. 利用者・地域住民等への効果検討 (2) 調査結果（事業に対する満足度）

- ・当該区間の整備に対し、約72%の方から「満足している」との回答が得られている。



【自由回答での主な意見】

- ・改良区間は走行しやすくなった。
- ・当該区間は整備され、歩車分離もされており、大変便利になった。
- ・車と人が分離され、とても良いと思う。
- ・広い歩道で安心して歩ける。
- ・回り道をしなくなって便利になった。

19

6. 対応方針

今後の事後評価の必要性の有無

○走行時間短縮、隘路や線形不良区間の解消など、**事業効果が確認**できた。

○沿線住民等へのアンケートでも、**7割以上の「満足」**を確認できた。

（「やや満足」を含む）

→ 以上のことから、**今後の事業評価は不要**

改善措置の必要性

○アンケート結果より、スピードの出し過ぎが目立つようになったとの声が多いことから、今後、警察等とも協議のうえ、速度抑制等の安全対策について検討する。

新規事業への適用すべき留意点

○本事業は、クリーンプラザ中濃の運用開始や関テクノハイランドの分譲、東海環状自動車道の供用など、**沿線事業の進捗に併せ連携を図り**ながら進めることができた。今後の事業にあたっては、**関連する各種事業との連携を図りつつ**推進していくことを目指す。

20